

能の力（コロナ終息祈願特別公演）

新春

わかさ能

令和四年 一月十六日(日)

午後二時三十分開演（開場一時間前）

奈良春日野国際フォーラム

薨（I・RA・KA）（旧奈良県新公会堂）

【能楽ホール】

奈良市春日野町101
電話：0742（27）2630

近鉄・JR「奈良駅」から奈良交通バス

（市内循環）「東大寺大仏殿春日大社前」下車

新作能

アマビエ



入場料 5,000円（全席自由席）

※ 定員500席のところ250席以下で運用

チケット販売 令和3年11月16日(火)
9時 販売開始

チケット販売所

◎奈良能事務所

TEL: 0742 (24) 5171

【Mail】 npohoujin.naranoh@gmail.com

◎奈良春日野国際フォーラム

TEL: 0742 (27) 2630 [奈良市春日野町(月曜休館)]

◎オンラインチケット

【URL】 www.i-ra-ka.jp/ から24時間チケットを予約・購入可

◎奈良県文化会館(文化情報センター) ※窓口販売のみ

TEL: 0742 (22) 0200 [奈良市登大路町(月曜休館)]

※当日はマスクを着用し、感染対策にご協力をお願い致します。

□主催 NPO法人奈良能
□協力 公益社団法人能楽協会

□共催 奈良県(奈良春日野国際フォーラム)
□後援 奈良市

【問合せ】 奈良能事務所 TEL: 0742 (24) 5171
【Mail】 npohoujin.naranoh@gmail.com

能の力 わかくさ能

令和四年 一月十六日(日)
奈良春日野国際フォーラム
薨し・I・RA・KA

わかくさ能解説

■素謡 神歌(かみうた)

「翁(おきな)」とは「能にして能にあらず」と言われ、能楽師が天下泰平国土安穩を神に祈る、特別で神聖なものとされていて、正月などの祝い催事の冒頭に上演されます。

「神歌」とは謡のみの「素謡」の形式で謡われる「翁」のことで、観世流・金剛流でのみ用いられる言い方です。

「とうとうたりたりら…」と、謡い出し、翁・千歳(せんざい)・地謡の掛け合いで謡われる厳かな謡で、年の初めを寿ぎます。

■一調 難波(なにわ)

「一調」とは囃子一人と謡一人が対峙して能の一節を演奏する演目で、能の技能の一騎打ち、戦いと言えます。本来、謡と囃子は調和を求めるものですが、一調での囃子方は気合のこもった掛け声とともに、囃子独自の特別な手を打ち、謡も負けじと囃子に乗せようとしています。一期一会の緊迫感を楽しむ演目です。

「難波」は難波津を舞台に、古来より日本に伝わる歌舞音曲や詩歌を称え、それにより天下が守り収まる事を祈る謡で、まことに新春に相応しい曲です。

■新作能 アマビエ

シテ	アマビエ	曲柄	五番目
ワキ	役人	季節	春
間狂言	所の者	所	とある海辺

物語 世界中が恐ろしい疫病の猛威にさらされ、先の見えない不安な日々。一人の役人の夢の中に現れた海神の使いと名乗るアマビエは疫病退散・無病長寿をもたらす預言を人々に与えます。その教えに従うと、次第に世の障りも収まり、世界に再び平和な日々が訪れました。

ある月の美しい夜、人々は海辺に集い、アマビエに感謝を捧げるため宴を催します。その音楽に引かれて光り輝くアマビエが出現し、我が姿写すべしと、夜の浜辺で舞を披露します。このような危機に直面している時こそ、雑言に惑わされずに、悪口を戒め、心の平安を失わず、お互いを思い遣ることの出来る静かな心の水面にこそ、我は映り留まり、災禍を退けることが出来るのだとアマビエは人々に告げ、再び深い海に還っていきます。

作者より 災禍が収まった後に皆でアマビエに感謝を示すという設定であるのは、それが実現されるように祈りを込めた予祝の言葉を用いて、平和な世界を引き寄せたいとの思いであり、また真に恐れるべきは疫病よりも苦難に直面した人の心が荒んで憎しみや争いの種を生んでしまうことではないでしょうか。

素謡 神歌

山中 雅志

山田 薫

上野 雄介
梅若 基徳
齊藤 信輔

解説

アマビエ誕生のお話

制作者 上田 敦史

一調

齊藤 信輔

荒木 建作

難波

新作能

新作全能版
奈良初上演

梅若 基徳

アマビエ

江崎 欽次郎

森山 泰幸
上田 敦史

上田 慎也
赤井 要佑

上野 雄介
山中 雅志

上野 朝彦
齊藤 信輔
井戸 良祐
山田 薫

特別上映

『能楽を旅する』観世流「国栖」於 金峯山寺蔵王堂
企画及び制作 公益社団法人能楽協会

※やむを得ない理由により、演者が変更になる事があります。